



新說明清合戰記

四

卷五

A13
4433
4





新説明清合戦記卷之四

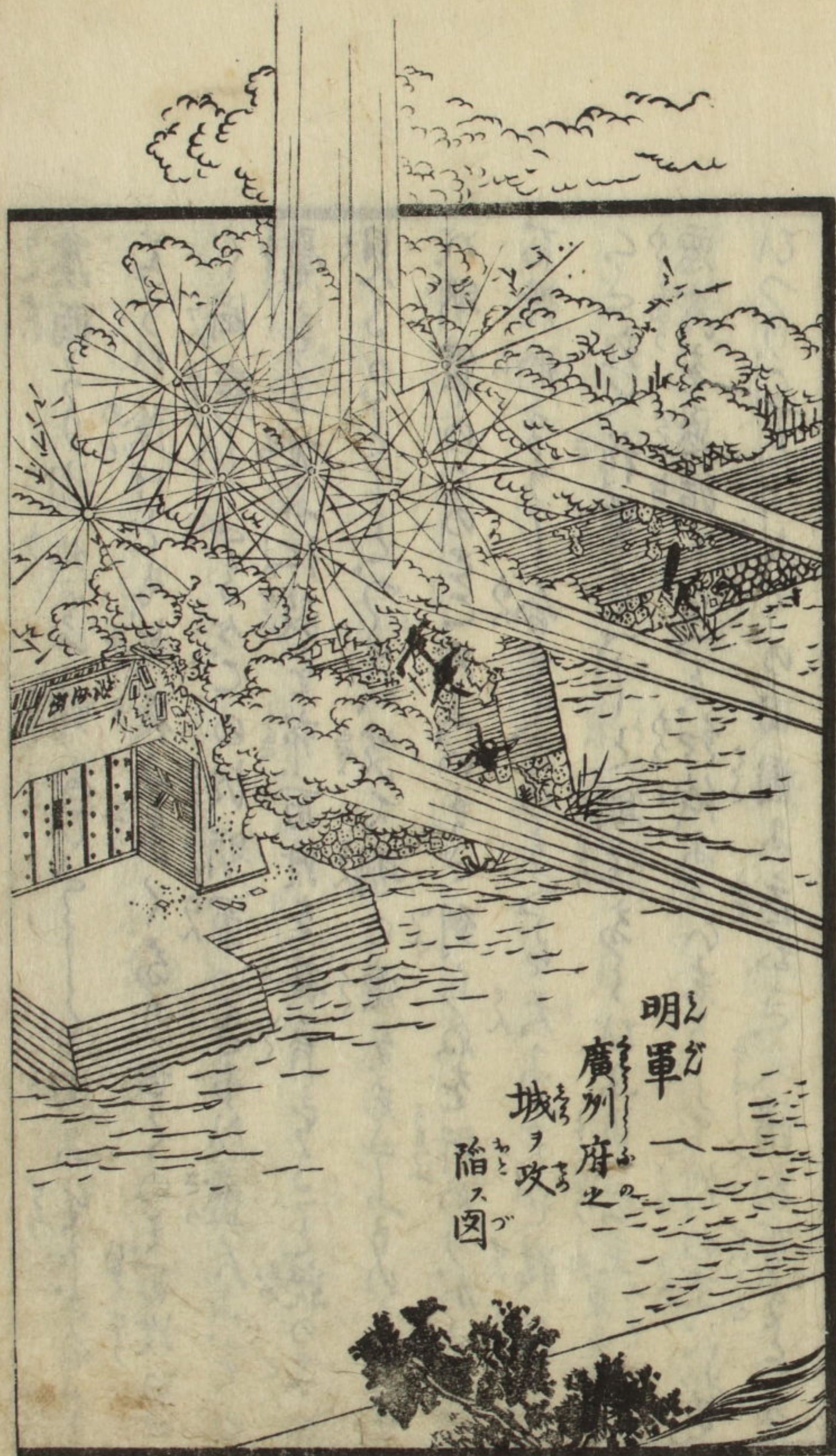
第七回 明軍廣西湖北を畧する事

再設耳眼毒株をりて款のるを敷一つ一云深竹も
 まどぶる雨化のおこあひあまどむ。吊竹吊切ちどこ
 ろ小二十五万餘騎の大軍を一戦あうち破りし。彼
 神速をうろとぶて小兵たの違者といふべし。さまは
 法軍ハこそがうろ小。あどろ小なりて坂をさまは。明
 軍ハ息をも絶せむおひ小進つ。廣州府の。株
 ちうく攻よきて。株兵們がむさふさめ。死護煩をうちを
 一。防ぐんとさつごころ。一。天砲といさうちをさして。株橋



石堰をみじん小碑きつひ小塔を攻おとす先とて
 先援兵の大將士率殺万人火死の屍累々たり
 のころと降系小出しつて廣州へちまら東定せり
 かゝるころ小孫宗と響小一揆の長陳立と共小
 南の府をまがりしより湖南省をくく明小敵
 一つふより湖南を古名の江西とよび之
 西より東小大ひ小仁政をなとてと小廣州の合戦小
 かくわたりを
 廣西の諸州および高州、潯慶の牧兵をわけて援軍
 小むらひしよと公孫棠つとて攻て猛可ふに西の兵と
 記し、揚州の刺史宗思、山南尉の守劉章と先鋒の

大將として鄱陽湖の下流をとり、廣西、安、廣府と攻
 おとすつとて高州、潯慶の空虚を襲ひ一戦小兩塔
 ともに奪とりけき、このより躬く小派進あり。其
 照、鄭天驪おとひ小よりらび、その功賞まらうらび
 け、とり張秀も明小降りて寸功を立んと乞ふを
 是をゆるして躬く小加、廣東こそぐく一統し
 志うばこの勢ひ小のりて廣西を攻とるべしと軍強
 せり。そのく廣西と交えし、湖北、又、廣、江西つ
 ありし、中華随一の大國あり、その地南西小あり、暖
 氣あまば五穀實のまら、志うる小、つと早魁あり



廣西より湖北まで鱧おびつゝ田不せどさぬぐ
ちつひ除けども日夜ふ多くありゆくの百姓の
く國竊しつるがこの次明軍のきりひ盛んふその
屬する地ふに政を布百姓を撫育すること就の子と
見ゆるがごとしとつゝ安ん明の徳を志すふりの多しを
バ明軍のこのところふいまど到らぬを肝めりかまきバ
百姓們まうし合せてこのうらた天ふまりせ精神を
くごたて祈誓まべしと明王あつび小東公主のこく
悪夷を退治志ぬつと知紙ふふあつして竹の末にむを
びつけこまきと知くの田圃ふまおき又清朝聖とある

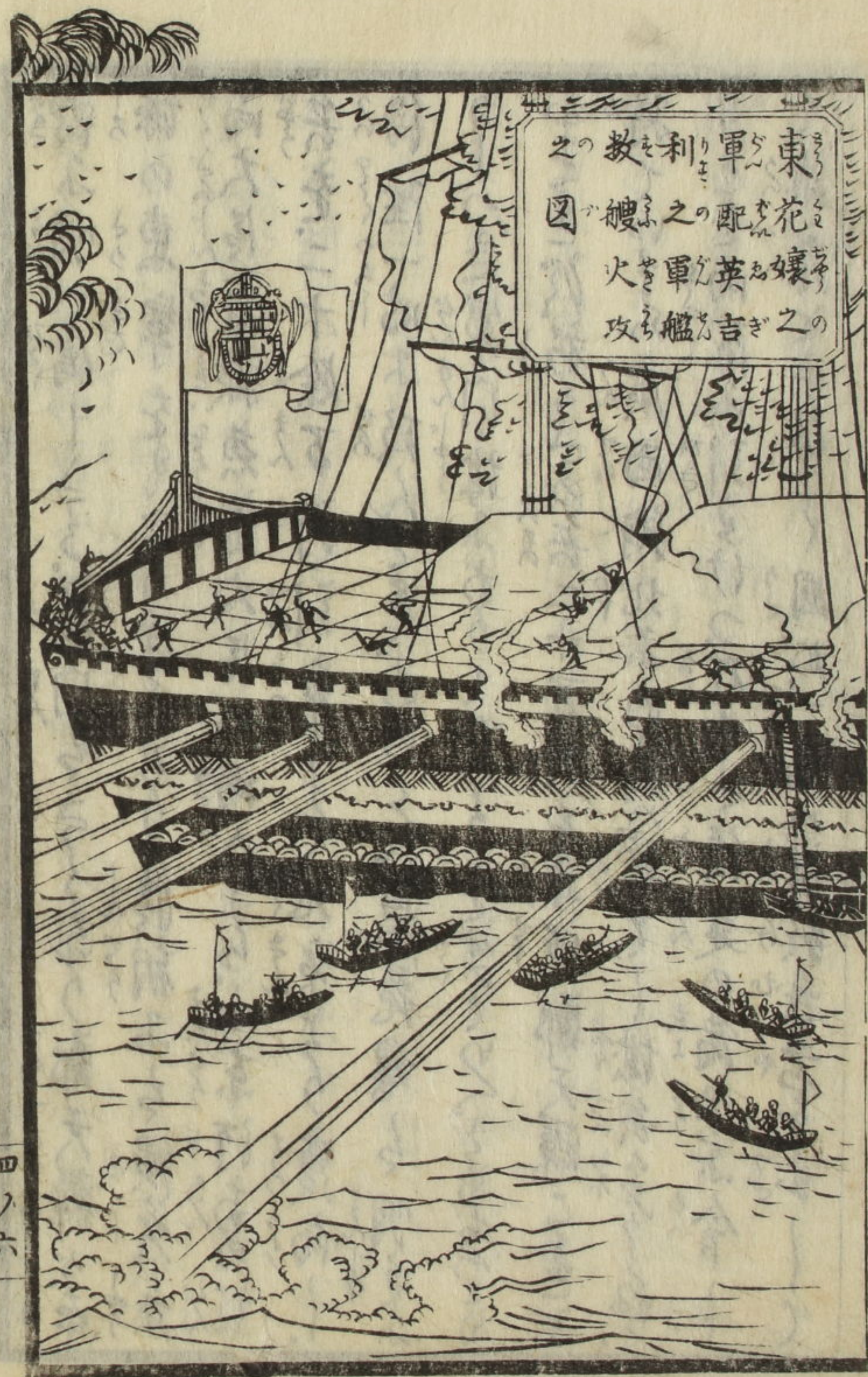
ト中りふあつしつるを和くの田圃へ立て誓ふらく
悪夷をみ中り小退しつるあつひまうしをに同じ
し小明王あつび小東花嬢とあるし志紙をえし田
この鱧もぐく一夜のうらふあつ消ぞく退くは清朝
がこいさくもあつしあつことあられは原来難夷国
をうたふて二百餘年天小勝しも天さごまりて証せ
る自然大明の世とあるべき時節ふこそと百姓們が置
置しつひあつし明王朱公と天徳の聖とありとを
まごひけるさまをよめこの後ふ明をためて年号と
天徳とあつしつる衆民明の徳を仰ぐがのべり

とまひしこそ。則天告あつべしとて。そのまゝ年号
ふり違へしとて。さても廣西湖北の諸侯と百姓との
こゝろあはれ多く。明ふらふとせしめて。廣州府ふ
此へて。明軍ふ内通せしむ。母照鄭天驪さうば
とて。西廣東の勢を合して。は十萬餘ふちうり。は
軍兵を引率し。廣西ふち入て。戦つて。後攻む。は
畧む。ふらふところさう。ふ款あつ。つひ。廣西を平治して。
湖北の洞庭湖まで攻よせけし。黃州華州長沙襄
陽の諸国の刺史甲をぬぎ。城を出て降参せし。ふぞ。
いまだ湖北の大華山より。北の国へ依さし。ふど。両省合し。

て二十の國。明の地とあり。ふらふ。あふ。又清朝ふら。嚮ふ
逆流追討して。福建へ。桑向せし。五万餘。濟の軍勢。は
東花嬢ふら。ちや。あつ。まて。石嵐。虬と。戦死し。達鬼のそ
猫ふ。あふ。さう。嵐の。さう。に。逆う。ふら。う。は。群長。あふ。ひふ
おどろ。死お。と。まて。い。う。ふ。ま。と。と。後。ま。ら。る。を。ど。に。東。花
嬢。が。え。う。ひ。ひ。て。朱。氏の。海。を。お。し。冊。つ。國。号。を。南。明。と。し。
その。地。の。衆。民。あ。つ。と。よ。て。發。と。を。あ。し。衣。被。を。あ。つ。こ。ふ。
明。の。民。と。あ。つ。ん。と。の。を。む。ひ。の。教。を。あ。つ。て。後。ふ。あ。の。つ。く
が。さ。う。く。脱。ふ。湖。に。湖。南。まで。あ。ひ。ひ。く。明。ふ。畧。さ。う。さ。う。し。
後。進。ひ。さ。し。さ。し。さ。し。は。滿。朝。の。大。臣。會。後。して。あ。る。ひ。ふ

首と惱ませども久しに泰平の文臣武官の如きより
機変を著しざれば民を治るべしと著し以て計策の
あきまふ小英吉利小援を乞ふと高強を以て決定
しつゝこの小英吉利諸藩入津の漢ある廣州に兵亂
あて入津を許すことありしに福建の海客を以て
明の国とあきまふ援なきに小英吉利は船を以て
英吉利人の如きとすけぬを以て承後あり火輪船を
以て本國へ去るべしといひかりけむ英吉利王の一隊小
およそは國の變ふのりてあきまふに百餘州を以て
とべしと大艦數十艘發帆して福建の海岸におよび

獨小明一屬しつゝ廈門を以てあり鄭天籟が本
株の東寧をもとりまきたり清朝ふら損免
尚大臣直隸總督大臣の兩りら山東河南の軍
兵を二十餘万誘引率して北京より畿甸へ
海陸一時小政人とすとおのり東莞瓊州を以て
うづき軍門株小ありてこのようて彼とつどもあつても
おそまはれおろこの兵二十万誘ふ耳照鄭天籟を以て
得ていまの廣西湖北小あきまはれ兵多し
こをを兩隊小引しけつて福建の諸侯小令して
て海客を以てびく圓め一隊ハ彼教長者を以て



ひとまづら安堵しつ。王ふまみえて賀とのべ。東莞嬢の勇氣
を賞して。おりの有とのけらやう。ごびの合戦さへひふ思ひ
まうけぬ。械乱ありて。清軍南系ふさまり。ひつりつこ
おりのまきに。務さきども。り。南系の強勁あく。清軍ひつ
お。ふ政まらば。その路々の諸侯の兵を合して。ちうくふ
よまら。ひつ。九三に十萬の勢とあるべし。寡の衆ふ敵
し。がく。若州ふ敵を待。さう。敵をとら。と死。と。おひ
討ふせ。まは。竟ふ敵。福達ふせまり。て。海陸より。さ
まきて。ら。ひ。ひ。死。躬。この大。と。あ。う。ん。ひ。と。り。清の
君臣。の。附。勢。を。の。機。変。を。あ。う。ざ。れ。が。英。夷。小。援。兵。を。乞。が

ごたら。眼。毒。の。利。と。え。う。り。て。国。の。禍。ひ。を。ま。な。く。り。の
あり。ご。ご。び。ら。さ。い。ひ。小。東。公。を。の。武。勇。を。り。て。残。あ。く。
う。ち。さ。う。ひ。ひ。ひ。う。ご。も。清。お。ひ。く。躬。この。この。小。海
つ。ま。の。国。と。せ。を。め。ら。ま。あ。は。獨。小。英。夷。小。躬。一。つ。て。賁。冷
ご。の。を。ば。あり。め。く。べ。し。さ。う。ご。死。の。會。ま。さ。ども。胞。く。こ
あ。う。ぬ。虎。狼。の。英。夷。い。よ。く。ま。は。く。明。を。う。う。み。ま。さ。く
敵。百。艘。の。軍。艦。を。り。て。海。寇。小。寇。を。あ。り。り。附。を。ひ。つ
ご。わ。う。ば。兩。虎。肉。を。あ。う。そ。う。た。死。死。こ。ま。と。好。の。野
ん。を。り。ご。た。この。野。國。を。敵。吞。せ。んと。ひ。そ。う。ふ。計。る。の。必
定。あり。め。く。ま。ば。明。清。ふ。う。ご。う。ご。終。國。の大。害。この。う。つ



臣們つゞく考ふる小福建より浙江の地を平控
 め小て王南陽小退きぬる。国家安全の基をたす
 べし。泉州の大港より。浙江江南に積まて海地と清
 小てのこもとれた。英夷一おらるる貢金もそのをたす
 これく。清蕃通商して貿易小相さぐひ利をむさ
 ぶる。自然英夷のわざやうあるべし。かくて窮りこら
 疆をまのりて。款攻きこら防款するのそ。三四十年
 軍をいごさげ。庶民を挫育し。士卒と年一あひ廣州小
 おいて。是まそのごとく。清蕃の貿易を大ひ小興し。明の
 地を騰沃し。はるあまねく仁政を布とれた。魏の徳を

ありし。戦をせし。明の地廣くありぬ
 ます。先朝の明。舊地を南系を帝都より。大軍
 を一時小獲し。山東河東の両方より。我んで北系をせぬ
 畧す。臣們が曾仲小計する。大明天下一統してより。
 英夷が乱妨の罪を責て。以来君臣の礼を厚く。小
 晋国小隨後。一あひあつして貿易とさせもせん。り。まご
 虎狼の逆意あり。日本国の法小あつひ。英和と見ん
 ぐ。善悪を列ふる。排ふとも。あつて款する。つと
 を。公之。は。この福建小英兵を起し。あひ
 一の。け。れ。ひ。一。国小あま。今。さ。この地を

西小玉博をきつくとたれと。西洲の東に南ある安慶
澳に虎州を畧して。明の杆城ふあさんと思ふ。あまひ
あつらひ。雷勃紀がらうらう。齋ふの汁小易しとをま
新方の士率と損せで。敵博を隔しその地をとる。は
兵と列るうひわらと。ひそく小探計とめらうけ

新説明清合戦記卷之四

